

東通村原子力発電所安全対策委員会開催

～安全協定・地域防災計画（原子力編）修正などについて説明～

3月26日、東通村防災センターにおいて、東通村原子力発電所安全対策委員会が開催されました。

この委員会は、村内の関係団体等により構成されており、原子力発電所の状況の報告や確認などを行うとともに、意見などを伺い、様々な対応をいくため設置しているものです。

会議では、東通原子力発電所東北電力1号機の安全協定の運用状況、村地域防災計画（原子力編）の修正、原子力防災訓練の実施状況、緊急被ばく医療体制の検討状況などについて報告がありました。

委員から、夜間の停電時における住民への情報伝達の方法、食糧や生活物資の現在の備蓄状況などについて、質問や意見があり、村から、一部については対応や確保をしているものの、今後も検討を進め対応していきたいと回答しました。

また、東北電力(株)から、福島第一原子力発電所の事故を踏ま

えた安全対策の実施状況、固体廃棄物貯蔵所の増設の完了、敷地内破砕帯の調査などについて、東京電力(株)から、港湾や建設途中であった構造物の維持管理と安全性向上のための作業、所員による全戸訪問の実施などについて、それぞれ説明がありました。

現在、国・県・事業者において、福島第一原発の事故を踏まえ、様々な検討や対策が進められています。

村としても、これらの状況を踏まえ、今後も、村民の安全と安心のため、全力で取り組んでまいります。



会議の様子

東北電力（株）東通原子力発電所図書寄贈

3月27日、東北電力(株)東通原子力発電所 佐藤敏秀所長が役場庁舎を訪れ、小・中学生を対象としたエネルギーに関する図書37冊、DVD17枚を東通村へ寄贈しました。

村長室で行われた寄贈式では、佐藤所長から「東通村の子ども達のために活用してください」と越善靖夫村長に目録が手渡されました。

同社は、平成10年から「原子力の日（10月26日）」、「電

気記念日（3月25日）」にちなみ、次世代を担う子供たちに環境やエネルギーについて関心を深めてもらうことを目的として、村内の小学校や中学校に教育関係図書を寄贈してきました。

寄贈は今回で29回を数え、子ども達のために活用されています。

ありがとうございました。



佐藤所長(右)から目録を受け取る越善村長

電気記念日

明治11年3月25日、東京虎ノ門の工部大学校において、公衆の前で初めてアーク灯がともされたことを記念し、昭和3年、日本電気協会の総会で3月25日が電気記念日と定められたものです。